

# 第1章 はじめに

これまで、学校事務職員の職務内容の明確化の取り組みは、各学校においてどのような仕事をしているかの実態を基に、「学校事務職員はなにをするのか」を調査・考察し、標準的に学校事務職員の職務を単位事務や個業としてまとめようとする研究や実践が主流であった。

また、学校事務の標準化の取り組みも並行して考えられ、「どのように学校事務をするか」を単位事務や個業の手順や方法等の処理過程の研究で積み重ねてきた。その結果、学校事務活動の標準的な取り組みの成果が還元され、一定量の学校事務の内容理解と共通化が図られ、成果として「学校事務の手引き」の発刊等に至っている。しかし、これまでの取り組みにもかかわらず、各学校の校務分掌の内容は一定でなく、また、基本的な職務も明確に定まっていない現実を抱えている。

特別委員会の職務を明確にする取り組みは、これまでの研究と実践の成果を踏襲しつつも、職務遂行の要件である

「なんのためにその仕事をしなければならないのか」

「その仕事の存在理由はなにか」を基本にすえ、

「事務とはなになのか」

「なんのために学校事務をするのか」

「学校事務は学校においてなにか」

を提起するとともに、学校経営における諸機能を「領域としての学校事務」としてとらえて具体化を図ることとした。領域の具体化にあたっては、「仕事の基本的職務と仕事の目標」をどのように把握し展望していくか等、職務を遂行するときの基本を問い、学校事務及び学校事務職員の職務の確立へ向けてのステップにする。

また、このとき重要となるのは、その仕事の目標を達成するための執務基準（質的・量的・方法的等）や職務遂行の過程（精神的な過程や習熟的な過程等）のあり方である。

つまり、

「どのように学校事務をするか」

といった役割のあり方が重要となる。これらのことは、職務を考える上で必要な要件となり、今後、段階的に明らかにしていく。